

山口県萩市方言の待遇表現

岡野 信子

I. はじめに

- (1) 調査対象地：山口県萩市は山口県の響灘・日本海海岸線上のほぼ中央に位置しており、その総面積は137.88㎢で、ここに18,296世帯、48,916人（平成7年10月現在）の人々が生活している。市の中心部は阿武川下流の松本川と橋本川にかこまれた三角州、いわゆる川内地区^{かわうち}で、旧城下町である。現在は川内地区は商業地区と住宅区であり、周辺域は農業地区、海岸域は漁業地区である。萩市はまた日本海上に多くの島々を有していて、このうち見島・相島・大島・櫃島は有人島で、農業と漁業を営んでいる。
- (2) 調査年月日：1997年1月23日
- (3) 教示者：下瀬安子氏 1921年生（76歳） 家業は写真館（実家は酒屋）
田中米子氏 1921年生（75歳） 家業は燃料商（実家は酒屋）
中村登志子氏 1921年生（75歳） 家業は農園（実家は米屋）
話者は三者とも川内地区の商家育ちで高等女学校を卒業している。すなわち萩の町ことばの話者である。
- (4) 調査場所・調査者：萩市民館和室で岡野信子が面接でおこない、萩市郷土博物館学芸員の清水満幸氏が同席して調査を助けた。
- (5) 調査方法：当該調査表による質問調査。話者三者の答えに異なりはなかった。
- (6) 表記方法：方言事象は片仮名で表記した。「クダサエ」「ゴザエマス」の表記は、[kudasəe]、[gozəemasu]の片仮名表記である。アクセントは高音部の上に線を施して表している。話者の説明は（ ）内に、調査者の判断は〈 〉内に記している。

II. 調査結果

i. 尊敬表現

i-1 対者敬語

- (1) A お前は アンター（町の女性は「オマエ」は言わない）
元気かね ゲンキー／ゲンキ カネー／（もっと高年の人は「オタッシャ」
「タッシャ カナー」と言う）
- B あなたは アチター
元気かね オゲンキデシタ カ／オゲンキデ ゴザエエマシタ カ〈自然に
完了形が出る〉／ゲンキデ オイデマス カー〈この場合は現在形であった〉
- C あなたは （目上には「あなた」は言わない。「センセー」（先生）、「ゴ

「ジュージョクサマー」(ご住職様)などと呼びかける)〈筆者は数年前ごろまでは、農村部の80歳代の女性が「セツセー アナター」のように呼びかけるのを聞いている〉

元気かね オゲンキデ オイデマス カノ／オゲンキデ ゴザエエマシタ カ

(2) A あしたは家に居るか アシター イエニ オツター／オツテ カノ (「イエ」は「ウチ」とも言う。)〈「オツテ」は軽い尊敬表現であるが、自然にこう言う〉

B あしたは家に居るか アシター イエニ オイデマス カ

C あしたは家に居られますか アシター ゴザエエタクデ ゴザエエマス カ

(3) A あした行くか アシタ イター／アシタ イッテ カエエノ

B あした行きますか アシタ オイデマス カ

C あした行きますか アシタ イラッシャイマス カ
／オイデニ チリマス カ

(4) A 温泉に行かないか オンセンニ イッチャー チイ カネ 〈「行かないか」相当は「イカン カネ」であるが、軽い敬語の「イッチャー」がしぜんに出る〉

B 温泉に行かれませんか オンセンニ イッチャー アリマセン カノ／オンセンニ イカレマセン カ

C 温泉に行かれませんか オンセンニ オイデマセン カ。オトモー サセテ モライマス イネ

(5) A しますか シテデ アリマス カ

B されますか ナザエエマス カ

(6) A 見ましたか ミテデ アリマシタ カ

B 見ましたか ゴランニ チリマシタ カ

(7) A ゆうべは何時に寝ましたか ユーベワ チンジニ ヤスマレマシタ カ

B ゆうべは何時に寝ましたか ユーベワ チンジニ オヤスミニチリマシタ カ (現在、90歳代の人たちは「オヨリマシタ カ」と言っていた)

C 寝てください ヤスマレテ クダサエエ (若い看護婦さんが言う。年配の看護婦さんは「ヨコニ ナツテ クダサエエマセ」と言う。)

(8) A どこに行っているか ドコ イッテ ノー／ドコ イッテ カノ くさまざまに問うても「イキヨル ノー」の進行態問いかけは出ない。ただし「アヒトタチャー ドコ イキヨツテ ホカネ」(あの人たちはどこに行っておられるのかね)と、第三者の進行態を見て相手に問う時には言う。答える。「イマゴロ オ下リ ナライニ イキヨツテ」(このごろ踊りをならいに通われてるの?)のように、日常生活状況を聞く時にも「～ヨツテ」を言

うと答えた)

- B どこに行っていますか ドコ イッテデ アリマス カ/ドコ イッテンデ
ス カ <この場合も進行態としての問いかけは出なかった>
- C どこに行っていますか ドチラエ オイデマス カ <問い直しても進行態は
出ない。>

(9) A どうぞ食べてくれ オアガリー ネ

B どうぞ食べてください ドゾ オアガンナサエエマセ/ドゾ オトンチ
サエエマセ

C どうぞ食べてください ドゾ オトンナサエエマセ/ドゾ オメシアガ
リクダサエエマセ

(10) A その写真を私に見せてくれないか チョット アンダー ソノ シャシン
ミセテ オクレー ノ/ミセデー ネ <「くれないか」相当の表現は出にく
く、「くれ」相当の表現が出る>

B その写真を私に見せてくださいますか ソノ シャシン ミセテ クダ
エエマセン カ

C その写真を私に見せてくださいますか ソノ シャシンオ ミセテ クダ
サエエマスマー カ/ソノ シャシンオ ミセテ イタダケマスマー カエ
エ <A, B, Cともに「私に」相当のことばは出なかった>

i - 2 第三者敬語

(11) A あしたは家に居るだろう アシター イエニ オッテヤロー デ

B あしたは家に居るだろう アシター イエニ オッテジャロー デ

C あしたは家におられるでしょう アシター オウチニ オイデルジャロー/
オラレルラシー デ

(12) A 居なかった オッチャー ナカッタ デ

B 居なかった オッチャー ナカッタ デ/オルスジャッタ デ

C 居なかった オイデマセダッタ デ

(13) A そう言った ソネー ユーデデシタ

B そう言った ソネー イワレマシタ

(14) A 今そこに行っていた イマ ソコニ イッチョッチャッタ ㊦ <存続態>

イマ ソコニ イキヨッチャッタ ㊦ <進行態>

B 今そこに行っておられた イマ ソコニ イッテ オラレタ ㊦ <存続態>

イマ ソコニ イッチョッチャッタ ㊦ <存続態> (友達に話す場合はこう

言うこともある)/イマ ソコニ オイデヨッタ ヨ <進行態> (もっと高
年の人は「イキオイデタ」と言っていた)/イキヨッチャッタ ㊦ <進行態>
(こうも言う)

- C 今ここに行っておられた イマ ソコニ イッテ オラレタ ヨ〈存続態〉
 /イマ ソコニ イッチョッチャッタ ヨ〈存続態〉(市長さんのことを言う時も、友人にはこう話すことがある) /イマ ソコニ オイデヨッタ ヨ
 〈進行態〉 /イマ ソコニ イキヨッチャッタ ヨ〈進行態〉
- (15) A 来ている(存続の敬態) キチョッテ ヨ
 B 来ている(存続の敬態) ミエテマス
 C 来ている(存続の敬態) オミエニナッテ オラレマス
- (16) A 仕事をしている(進行の敬態中) シゴトー ジョッテ
 B 仕事をしている(進行の敬態上) シゴトー シテオイデル ヨ / ジョイデル
 ル(ずっと高年の人が言っていた)
- (17) A 見せてもらった ミセテ モロータ イノ
 B 見せてもらった ミセテ モロータ イノ
 C 見せてもらった ミセテ モロータ イノ(よほど特別な物なら「ミセテ
イタダイタ」と言うこともある)
- (18) A 見せてくれた ミセテ クレチャッター ネ
 B 見せてくれた ミセテ クレチャッタ
 C 見せてくれた ミセテ クレチャッタ(ずっと以前の老人は「ツカサエエマ
シタ」と言っていた。自分たちも子供のころは「ツカサエエ」(ください)
 と言っていた)
- (19) A 私にくださった ワタシニ クレテデ アリマシター ノ
 B 私にくださった ワタクシニ クダサエエマシター ノ(昔の人は「ツカサエ
エマシタ」と言っていた)
- (20) A いただいた モローター ノ
 B いただいた モローター ノ〈A・Bともに「イタダイタ」がありそうに思
 えるが、友人に話す場合、第三者敬語としては出にくい〉

ii. 謙讓表現

ii - 1 謙讓表現

- (21) A 私も ウチモ
 B 私も アタシモ
 C 私も アタクシモ
- (22) A 十分に食べました ジューブンニ イタダキマシタ
 B 十分に食べました ジューブンニ チョーダイシマシタ
- (23) A 持ちましょう オモチシマショー
 B 持ちましょう オモチシマショー

- (24) A 待たせたね オマタセー。オソー ナッテ ゴメン 不
 B お待たせしました オマタセシテ ゴブレー シマシタ
 C お待たせしました タイヘン オマタセイタシマシタ。ゴブレーシマシタ
 (現実には、目上の人を待たせることはない)
- (25) A 駅で待っているよ エキデ マッチョル デ
 B 駅で待っていますよ エキデ オマチシテ オリマスカラ
 C 駅で待っていますよ エキデ オマチモーシアゲテ オリマスカラ
- (26) A 言ってくれ ユーチョッテ オクレー ネ (「ユーテ オクレー ネ」より
 こちらの方が多い)
 B 言ってくれ ユーテ クダサエエマセ (昔の老人は「ユーチョッテ ツカザ
 ンセー ノ」と言っていた)
 C 言ってくれ ユーテ イタダケマスマー カエエ (現実には目上の人に夫へ
 の伝言を頼むなどはありません)
- (27) A これをやろう コリヨー アギヨー イネ
 B これをあげましょう コリヨー アゲマシヨー
 C これをあげましょう コリヨー サシアゲマシヨー

ii - 2 身内敬語

- (28) A 買ってやった コーテ ヤッター ノ/コーテ ヤッタ イノ
 B 買ってやった コーテ ヤリマシタ イネ (ペットや孫や子に「~テ アゲ
 ル」を使うのをテレビで聞くことがあるがおかしい)
 C 買ってやった コーテ ヤリマシタ
- (29) A 主人はもう帰っている シュジンワ モー カエッチョリマス (「主人は」
 を「ウチニャー」と言うのを筆者は以前に聞いているが、この場合は出な
 かった)
 B 主人はもう帰っています シュジンワ モー カエッテ オリマス

iii. 丁寧表現

- (30) A 行くよ イテ デ
 B 行きます マイリマス
- (31) A 寒いね サミー 不/サムイ フ/サビー フ/ (「ヒヤイ フ」とも言う)
 B 寒いね オサムー ゴザエエマス (調査者はこれまでに「オサムー アリマ
 ス」も聞いているが、今回は出なかった。男性ことばかもしれない)
 C 寒いですね オサムー ゴザエエマス
- (32) A 居るよ オル 百
 B 居ます オリマス

- (33) A よかったねえ エカッタ ネー
 B よかったですねえ ヨロシユー ゴザエエマシタ ネー。オゲンキニ ナラ
 レテ／ゲンキニ ナラレテ ヨゴザエエマシタ ノ
 C よかったですねえ オヨロシユー ゴザエエマシタ
- (34) A そうか ソレ カエエ ノ／ソレ カネ
 B そうですか ソレデス カ／ソレ デ アリマス カ
 C そうですか ソレ デ ゴザエエマス カ

iv. 人間関係に応じた待遇表現

iv-1 特定表現の待遇表現

- (35) その角を曲がって右へ行くと～ ツコー イッテ カドガ アリマショー。ソ
 レー ミギー マガッチャッタラ ヨゴザンス イノ（「マガッチェモラッテ」
 の言いかたはない）／コッチー オイデマシタラ ショクドーガ アリマス
 デ。ソレオ マアデニ ナザエエマセ（このようにも言う）
- (36) とんでもない ヨー ユーデ デ。トーンデモナエエ。ワタシガ ワル カエ
 エ ノ。／トツケモナエエ コト イーサンナ ヨ（「トンドモゴザエエマ
 セン」と言うのは、目上の人にほめられた時、あるいは婦人会の会長などの
 大役を頼まれた時である）

iv-2 多人数場面の待遇表現

- (37) 世話役を頼まれて引き受ける時のあいさつ イキメイカン コトガ タタ ア
 ルト オモイマスゲド ヨロシユー オネガイイタシマス。（これに「ミチ
 サンノ オチカラオ オカリシテ」というようなことを加えて言うこともあ
 る。「イキメイカン」は「ゆきとどかない」の意味である）
- (38) 今度の旅行には参加者が少ないので、皆さん参加してほしい コンドノ リョ
 コーニャー サンカシャガ ステノーゴザイマスカラ ミチサン サツイオ
 ーテ ゴザンカクダサエエマセ。ミンチデ イキマショー イネ。オネガイ
 シマス イフンタ。

vi-3 位相による待遇表現

- (39) A. 朝の出会いのあいさつ B. どこへ行くのか
1. お寺の住職さんに
- A. オハヨー ゴザエエマス B. ドチラエ オイデマス カ
 ドチラエ オコシテ アリマス カ
2. 校長先生に
- A. オハヨー ゴザエエマス B. ドチラエ オイデマス カ
3. 見知らぬ年配の男性に

- A. オハヨー ゴザエエマス B. (尋ねない)
4. 見知らぬ年配の女性に
A. オハヨー ゴザエエマス B. (尋ねない)
5. 顔見知りの年上の男性に
A. オハヨー ゴザエエマス B. ドチラエ オイデマス カ
6. 顔見知りの年上の女性に
A. オハヨー ゴザエエマス B. ドチラエ オイデマス カ
7. 10歳ほど年下の見知らぬ男性に
A. B. あいさつことばは言わない。ちょっと頭を下げて通り過ぎる。
8. 10歳ほど年下の見知らぬ女性に
A. B. あいさつことばは言わない。ちょっと頭を下げて通り過ぎる。
9. 同年配の男性に
A. オハヨー ゴザエエマス B. アンター ドコ イッテ (以前は男女別クラスだったから同級生はいない。小さな小学校なら同学年生が同級生のようなものである)
10. 同級生の女性に
A. オハヨー。 B. ドコ イッテ。オヒサシー 不。(久しぶりに出会った時)
11. 10歳ほど年下の顔見知りの男性に
A. B. 先方があいさつをすればあいさつを返す。こちらから先にあいさつすることはない。
12. 10歳ほど年下の顔見知りの女性に
A. B. 先方があいさつをすればあいさつを返す。こちらから先にあいさつすることはない。
13. 近所の中学生の男の子に
A. オハヨー B. ドコ イク / ドコ イッテ カ
14. 近所の中学生の女の子に
A. オハヨー B. ドコ イク / ドコ イッテ カ

Ⅲ. 総括 (まとめ)

i. 尊敬表現 — 対者敬語の場合

(1) 待遇の三段階

対者待遇表現は、友人・年長者・目上の三段階であった。最も低いレベルである友人待遇も、たとえば(2)A, (3)A, (4)A, (8)Aなどに見えているように、「～テ」敬語、「～チャック」敬語である。敬語要素のない表現はまずない。一方、対目上、

すなわち近隣社会生活の中の最高敬語には、(3) Cに見られるように、「イラッシャイマス カ」「オイデニ ナリマス カ」のように、共通語敬語を用いることがある。

目上待遇にはまた(2) C「ゴザエタクデ(御在宅で)」、(6) B「ゴランニ(御覧に)」などと、漢語敬語を使うことがある。なお、(22) B「チョーダイシマシタ(頂戴しました)」は謙讓語であるが、ここにも漢語が見えている。

(2) 婉曲表現

目上に対する要求表現には、(10) C「ミセテ クダサエエマスマー カ」「ミセテ イタダデマスマー カ」のように、婉曲表現が多く見られる。

2. 尊敬表現 — 第三者敬語の場合

第三者敬語の場合は、友人に話す場合と年長者に話す場合とでは状況が異なっている。年長者に話す場合には、(13) (15) (19)に見えているように、話題の人物が年長者であれば「～テ」敬語で待遇し、目上の人物が話題の主であればそれよりは高い敬語で待遇している。一方、友人に話す場合は、(11) (12) (16)に見えているように、友人と年長者は「～テ」敬語、「～チャック」敬語待遇、目上の人物はそれより高い待遇で、年長者に話す場合と同様である。ただし(14)では、友人、年長者、目上の人物をともに「～チャック」敬語で待遇するとともに答え、また年長者と目上の人物とはやや高く遇するとともに答えて「ゆれ」を見せている。相手が自分に恩恵を与えたと友人に語っている(18)では、三者はともに「～クレチャック」待遇であり、自身が恩恵を受けたことを言っている(17) (20)では「モロータ」で、謙讓語は出なかった。

3. 謙讓表現

自身の状態・行動を言う表現は、対友人の場合、対年長者の場合、対目上の人物の場合で謙讓度が異なっている。すなわち三段階である。ただし(23)「あなたの荷物を持ちましょう」は、年長者に対しても目上の人物に対しても「オモチシマショー」であった。謙讓動詞、謙讓補助動詞の「ツカサエ」「ツカサンサー」は、過去のことばであると話者たちは語った。

4. 身内敬語

この調査の話者の回答では身内敬語は聞かれなかった。ただし筆者の過去の萩調査では近所の人に問われて「(夫は)カエッショッテデス」(帰っておられます)と、軽い敬語で遇するのを聞いている。かつて「自分の両親や祖父母のことを他人に語るのに「ネチョッテ」(寝とられる)「イキヤール」(行かれる)のように、軽い敬語を添えて言うことも多い。」(『国文学研究』第五号、梅光女学院大学日本文学会、昭和44年11月)とも記している。

5. 人称詞待遇の三段階

自称詞の場合は「ウチ」「アタシ」「アタクシ」の三段階、対称詞の場合は「アンター」「アナター」「対称詞を言わない」の三段階である。目上に対しては「センサー」(先生)

「ゴジュウシヨクサマー」(御住職様)のように、相手の社会的地位で呼びかけると話者たちは答えた。ただし筆者は過去の農漁村調査では、「センセー、アナター……」のように呼びかけられることが多かったことを記憶している。今回の調査で答えられた話者たちの説明は、対称詞使用の共通語化を見せているのであろうか。なお、今回の調査項目には他称詞はないが、萩では(山口県一般で)「アレガ ユーデデシタ」(あの方が言われました)のように「アレ」が用いられる。

6. 位相による待遇表現

待遇表現は上・下、親・疎の関係把握によってなされる。「上」の認識は相手の社会的地位にもよるが、年齢がその大きな要素となっている。

今、萩の高年女性の朝のあいさつことばの上にこの状況を見ると、寺の住職・先生・顔見知りの年長者男女にむけてのあいさつは「オハヨー ゴザエエマス。ドチラエ オイデマス 力」である。ところが相手が高年者であっても見知らぬ人物、すなわち上位者ではあるが“疎”の関係の人物には、「オハヨー ゴザエエマス」としか言わない。「どこへ行くのか」の問いかけは、正確な答えを求めるものではなくて、相手に関心を持っていることの表明にすぎないが、“疎”の関係の人物に対しては、これを言わない。“下”でかつ“疎”である相手、すなわち10歳ほど年下で見知らぬ男女には目礼のみであいさつのことばはない。

一方、対等でかつ“親”の関係である人物——たとえば男性の同級生には「オハヨー ゴザエエマス。アンター ドコ イッテ。」と言っている。その発想は“上”で“親”である人物に言うものと同様であるが表現がくだけている。女性の同級生に対しては表現がいちだんとくだけて「オハヨー。ドコ イッテ。」となっている。近所の中学生に対しても同じ表現で対しているのも親近感の表現である。年下の顔見知りの人物に対しては先方のあいさつを待ってあいさつをするというのは、上・下のわきまえであり、かつ相手を教育する心持ちもあるのかもしれない。

7. 萩市域における待遇表現の推移

今回の調査の話者は、萩の町育ちの75歳・76歳の女性であった。すなわち高年女性の待遇表現の調査であったが、「調査結果」にも記したように、話者たちは、より高年の人たちの待遇語との相違をしばしば語った。また自分たちが幼いころ口にしてきた「ツカサエエ」(ください)などを今は口にしないことなどをも語った。

話者たちはまぎれもなく萩ことばの待遇表現を教示してくれたのであるが、それは筆者の昭和44年(1969)の萩市農漁村域の調査で聞いたものとはかなり異なっていた。たとえば「ゴザル」「ジャール」(いる・来るの尊敬語)、「オシラエル」(おっしゃる)などは今回の調査では聞かれなかった。ゆるやかながら共通語化の状況がここにも見られる。

(おかののぶこ 梅光女学院大学客員)